

訓点語学会

第一二五回研究発表会

◇日時 令和三年十月十七日（日）午前十時～午後六時

◇会場 ZOOMを使用したオンライン開催

○研究発表

- 一、改編本系『類聚名義抄』における漢字の定訓について 林 楚宜
- 二、観智院本『類聚名義抄』における『説文解字』の利用について 張 馨方
- 三、江戸時代における『大学』の訓点本とその訓点法
アンドレ・ポツィアスキ
- 四、琉球における漢文訓読について
琉球大学附属図書館蔵『論語集注』訓点の検討― 中野 直樹
- 五、和文と漢文訓読文を対照することは妥当か
―和文と漢文とから見る漢文訓読文― 田中 草大
- 六、日本語における古代漢語からの借用形式の分類を捉え直す
―二次的借用プロセスに目を向けて― ジスク・マシユ―
- 七、キリシタン版『落葉集』所収漢字と和訓の常用性 白井 純
《招待発表》
- 八、韓日資料から見た古代韓国語の文字使用と音韻論 李 準煥

○講演

中世欧州における「自言語読み」の注釈体系について
―日本の訓点と比較して― ジョン・ホイットマン

○会務報告

〒六〇六一八五〇一 京都市左京区吉田本町

京都大学文学部国語学国文学研究室内

訓点語学会